

平成19年度

事業計画書

財団法人

日本高等学校野球連盟

I. 高等学校野球の振興および加盟団体に対する監督

(寄付行為第4条1項)

- (1) 年度終了後の評議員会は5月25日(金)に、平成19年度事業計画審議の評議員会は11月30日(金)に開催の予定。また、年度内に全国理事会を4回開催するほか九地区理事会を2回、毎月定例として常任理事会を開催して諸案件を審議、高等学校野球の健全な育成、発達を図ると共に各都道府県高等学校野球連盟会長会議、同理事長会議をそれぞれ各1回開催し加盟団体への監督、指導を図る。
- (2) 高等学校野球の振興策として、中学・少年野球の育成事業を継続して推進する。来年度も、①定期連絡会の開催、②育成・振興事業の推進、③講習会、研修会などへの参加の呼びかけ、④中高連携方法の検討、⑤中学生の体験入部の取り扱い規定の周知徹底、を中心に各都道府県高等学校野球連盟と協力して連携を図る。特に中体連軟式野球専門部との連携を強化する。
- (3) ここ数年、野球部関係者の不祥事件が多発傾向にある。不祥事件のうち指導者および部員の部内暴力事件の絶滅と部員のいじめ行為や異性に関する不祥事などの指導を強化する。
 - ①指導者の部内暴力
指導者の暴力(体罰)が後を絶たない。「暴力のない高校野球を目指して」(平成17年8月27日付通達)の主旨が現場では生かされておらず、相変わらず理性を失った指導が多い。指導者と部員のコミュニケーションのとり方に十分留意するよう訴えていく。
 - ②部員のいじめ行為の絶滅
部活動で、スポーツマンシップにもとるいじめが発生するのは残念なこと。最近の事例では、メールを使った言葉の暴力やちょっとしたからかい行為からエスカレートすることが多い。部員間で不正義に対する勇気を持つことや、指導者の注意深い観察が大切。日頃の指導で、いじめ行為の絶滅を期したフェアプレイ精神の醸成を図る。
 - ③異性に関する不祥事の防止
異性に対する関心が高まる年代ではあるが、青少年に有害な情報が増えており、自制心を失った行動が目立つ。異性に対する人権尊重と共に部員の自制、自戒を促す。
 - ④校則違反の指導徹底について(再徹底)
平成16年11月に都道府県高等学校野球連盟の共通認識の下に、部員の身だしなみに関する通達が出された。しかし、全国大会出場校の中には眉の剃りこみや服装の乱れが見受けられるチームが一部にあり、

再指導の徹底が求められている。当面、第79回選抜高等学校野球大会推薦校に対し、指導者を通じて遵守を求める。

- (4) 情報公開の推進と都道府県高等学校野球連盟との業務を円滑にするため、Eメールやホームページの開設を推進する。
- (5) 野球留学問題関連として来年度も選抜大会、選手権大会の両全国大会出場校の選手登録を分析し、都道府県外出身者の実態を把握、公表する。また、選手権地方大会登録選手についても引き続き調査を実施し、実態把握に努める。

II. 高等学校野球の調査、研究

(寄付行為第4条2項)

- (1) 年度内に総務、財務、審議、軟式部、審判規則、技術・振興、医科学等の委員会を随時開催、諸事項を細部にわたり審議、検討する。
- (2) 5月末現在を基準とした硬式、軟式両加盟校部員数調査を来年も実施する予定。
- (3) 年度内に開催される第79回選抜高等学校野球大会ならびに第89回全国高等学校野球選手権大会に参加する出場校に、大会期間中の宿舍生活実態と参加経費、寄付金募集の状況と過不足金の処理方法などの内容についてアンケート調査する予定。

III. 高等学校野球大会の開催および協力

(寄付行為第4条3項)

年度内に次の通り諸野球大会を当連盟の主催または協力で開催する。

- (1) 第79回選抜高等学校野球大会

期 日 平成19年3月23日(金)から12日間

場 所 阪神甲子園球場

参加校 32校(一般選考28校、21世紀枠2校、特別枠2校〈神宮大会枠1校、希望枠1校〉)

- (2) 第89回全国高等学校野球選手権大会

期 日 平成19年8月8日(水)から15日間

場 所 阪神甲子園球場

参加校 49校(北海道、東京は2校、他の府県は各1校)

(3) 第52回全国高等学校軟式野球選手権大会

期 日 平成19年 8 月 25 日(土)から 5 日間
場 所 明石公園野球場と高砂市野球場
参加校 全国16地区から各 1 校ずつの計16校

(4) 第62回国民体育大会（秋田国体）・高等学校野球競技会

・硬式の部

期 日 10月 6 日(土)から 4 日間
場 所 秋田県立野球場、秋田市八橋運動公園硬式野球場
参加校 12校

・軟式の部

期 日 10月 5 (金)から 4 日間
場 所 能代球場
参加校 10校

(5) 春季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の全国 9 地区で 4 月下旬から 6 月中旬にかけて開催の予定。

(6) 秋季地区大会

各都道府県高等学校野球連盟の協力により、北海道、東北、関東、東京、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の全国10地区で10月上旬から11月中旬にかけて開催の予定。

(7) 第38回明治神宮野球大会

11月10日（土）から 4 日間、明治神宮第一、第二野球場で開催の予定。
高等学校の部は10校の参加とし、東京都のほか 9 地区から代表が参加する予定。

[海外派遣ならびに招待]

次の通り年度内に海外派遣、招待を行い、野球を通じて国際親善を計る予定。

(1) 日伯親善・ブラジル選抜高校チーム招待

5 月 9 日(水)から同20日(日)まで12日間、ブラジル選抜チームを招待。
下記 6 都県連盟の協力を得て朝日新聞社と共催で 8 試合（茨城と福島はダブルヘッダー）の親善試合を開催する。

- ① 5月12日(土) 群馬県選抜チーム(県営敷島球場)
- ②③ 13日(日) 茨城県選抜チーム<2チーム編成>(水戸市民球場)
- ④⑤ 15日(火) 福島県選抜チーム<2チーム編成>(県営あづま球場)
- ⑥ 17日(木) 岐阜県選抜チーム(長良川球場)
- ⑦ 19日(土) 三重県選抜チーム(四日市市営霞ヶ浦球場)
- ⑧ 20日(日) 東京都選抜チーム(江戸川区民球場)

(2) 日米親善・北信越地区選抜チーム ハワイ派遣

8月13日(月)から同22日(水)まで10日間、北信越地区5県の中から役員8人、選手18人を米国ハワイ州に派遣。ハワイ島とオアフ島で合計5試合の親善試合を開催する。

(3) 日米親善・全日本選抜チーム 米国派遣

8月30日(木)から9月7日(金)まで9日間、第89回全国高等学校野球選手権大会に出場した選手の中から優秀選手(18人)を選考し米国に派遣。ロサンゼルス郊外のコンプトンで、アーバンユースアカデミー所属の高校生と親善試合(3試合)を開催する。

*この派遣事業は7月3日に追加決定したものです。

IV. スポーツ医科学の調査、研究

(寄付行為 第4条4項)

(1) 医科学委員会(越智隆弘委員長・国立相模原病院院長)でスポーツ医科学の啓蒙と推進事業を担当する。

(2) 選抜大会並びに選手権大会参加の投手全員に大会前に肩、肘の関節機能検査を実施、スポーツ障害予防の啓蒙に努める。

V. 一般アマチュアスポーツ団体との協力、提携

(寄付行為 第4条5項)

(1) 全日本野球会議、全日本アマチュア野球連盟、日本野球連盟、全日本軟式野球連盟をはじめ全国定時制軟式高等学校野球連盟、全国高等専門学校体育協会、全国高等学校体育連盟、日本中学校体育連盟のほか各種少年野球団体とも密接に連絡、会合などを随時開催して相互の発展と振興を図る。

VI. 高等学校野球の指導者、審判等の講習会の開催

(寄付行為 第4条6項)

(1) 全国で、加盟校指導者を対象に指導者講習会を開催。

スポーツ障害予防をテーマとした研修会と佐山和夫氏の「ベースボールライブラリー」の講師派遣事業を継続する。

実施方法は例年通りで、次の通り。

- | | |
|-----|---|
| 主 催 | 都道府県高等学校野球連盟 |
| 後 援 | 日本高等学校野球連盟 |
| 講 師 | 日本高等学校野球連盟が委嘱したスポーツドクターおよびトレーナーと佐山和夫氏 |
| 講 座 | ①スポーツドクターによる障害予防の指導
(i 投手の肩、ひじ ii 足、腰で起こるスポーツ障害)
②野球選手のためのトレーニング理論と実践法
③トレーナーによる外傷、障害の予防とコンディショニング
④佐山和夫氏のベースボールライブラリー |

以上のほか、高校野球全般をテーマにした各都道府県連盟指導者講習会に講師として適任者を派遣する。

- (2) 各地区からの要請などにより当連盟会長をはじめ適任者を派遣し、随時指導者講習会を開催。高等学校野球の在り方を指導する。
- (3) 全国審判講習会を4月28、29日の両日、阪神甲子園球場並びに中沢佐伯記念野球会館において開催。各都道府県代表の受講者を対象に高校野球審判員として技術、精神面の全般にわたり指導する。
- (4) 全国を九地区に分け、3月上旬から5月下旬にかけてブロック毎の審判講習会に講師を派遣し、指導する。
- (5) 来年度新たに就任した都道府県連盟理事長を対象に平成20年2月7日、8日の両日、中沢佐伯記念野球会館で研修会を開催。学生野球憲章をはじめ各種規定や通達の内容を指導する。
- (6) 審判規則委員会から重点指導事項として掲げた「制限区域があるプレイの再確認」の徹底を図る。
 - ①バッタースボックス
打者は両足をバッタースボックス内に置いて打撃することが求められている。特に、スクイズバントやセフティーバントでは反則打球に気をつけること。
 - ②キャッチャースボックス
捕手は、ホームプレートの直後に位置しなければならないと決められ

ている。身体の大部分がキャッチャースボックスから出ているような構え方は止めること。

③スリーフットレーン

3フィート≒91.4cmは身体を中心線から片腕を伸ばした幅くらいが目安。練習で走路を意識した走塁を体得すること。

④コーチスボックス

ベースコーチは常にコーチスボックス内にとどまることが基本で、走者の走塁を手助けしたと見なされた場合は、ペナルティが課せられる。

以 上